

月刊しばうら

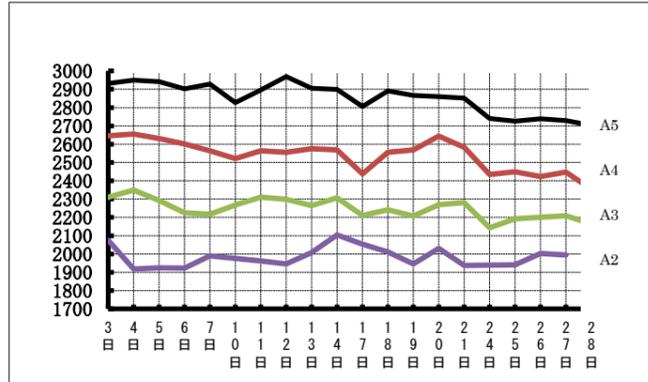
2017年5月号

大動物事業部

<4月の相場動向>

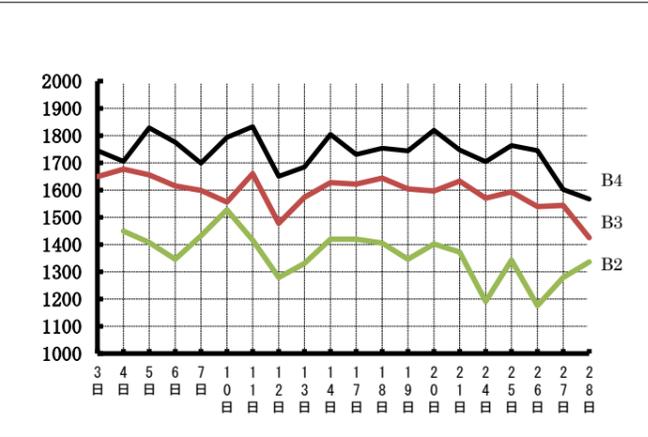
和牛去勢 A5 が前月比 54 円高の 2,867 円、同 A4 が 83 円高の 2,553 円、同 A3 が 66 円高の 2,255 円、同 A2 が 34 円高の 1,982 円で、いずれも前月を上回った。交雑去勢は B4 が 3 円安の 1,751 円、同 B3 が 28 円高の 1,607 円、同 B2 が 10 円高の 1,366 円となり前月に続き反発した。初旬から中旬にかけては、月・年度替わりでの補充買いや、GW 向けの手当て買いなどで活発な値動きとなったが、一段落した月後半は一服感も。月を通して全体的には強もちあいの相場動向となった。

和牛去勢 日別相場表 (4月)



和牛去勢月平均	前年同月比	前月比
A5 2,867 円	(98.1%)	(101.4%)
A4 2,553 円	(94.0%)	(103.0%)
A3 2,255 円	(88.1%)	(103.0%)
A2 1,982 円	(81.2%)	(101.7%)

交雑去勢 日別相場表 (4月)



交雑去勢月平均	前年同月比	前月比
B4 1,751 円	(95.2%)	(99.8%)
B3 1,607 円	(93.5%)	(101.8%)
B2 1,366 円	(86.3%)	(100.7%)

乳牛去勢月平均	前年同月比	前月比
B3 上場なし	—	—
B2 1,033 円	(92.0%)	(110.5%)

<5月の牛肉輸入量予測>

財務省が発表した貿易統計による3月の牛肉輸入通関実績は、前年同月比 20.4%増の 4万3,552t と前月に続き 4万t 超えとなった。例年3月は、決算期を迎え在庫を絞る関係で輸入数量は少ないが、今回は在庫水準が2月時点で前年を16%下回る低水準であったことや、4月からのフローゼンの関税低下のインパクトが比較的小さかったことで通関を繰り延べる動きが少なかったことなどで、前年を大きく上回った。

農畜産業振興機構の予測による5月の牛肉輸入数量は前年比 6.5%減の 4万3,400t。チルドは 0.8%増の 1万9,800t で、豪州産の出荷頭数減少による輸入減が見込まれる一方で、米国産は生産量の回復に伴い増加が見込まれ、好調な需要を背景に前年同月を上回ると予測している。フローゼンは 11.6%減の 2万3,600t で、前年の日豪 EPA による関税率低下を踏まえて通関繰越しが発生した反動や、現地相場の上昇などにより前年同月をかなり大きく下回ると予測している。

輸入牛肉通関量	3月	前年同月	前年同月比	
チルド	豪州	9,498	9,504	99.9%
	米国	11,613	6,879	168.8%
	その他	977	760	128.6%
	合計	22,088	17,143	128.8%
フローゼン	豪州	11,059	6,857	161.0%
	米国	7,669	9,609	79.8%
	その他	2,736	2,545	107.5%
	合計	21,464	19,024	112.8%

単位：t 出典：食肉速報

<5月の全国出荷頭数予測>

家畜改良センターの個体識別情報による、17年2月末の牛飼養頭数は前年比 0.1%減の 382万7,190 頭で、前月から 9,077 頭増となった。交雑種は引き続き増産で前年より 3.2%ほど回復となり、和牛は2カ月連続の回復で前年実績を 1.2%上回っており、前月からは 9,487 頭増と全体の増加を上回っており、和牛の増加傾向が顕著にあらわれている。

農畜産業振興機構による5月の出荷予測頭数は、出荷頭数およびと畜場稼働日数が上回ることなどから、前年同月比 1.6%増の 8万2,700 頭と予測している。品種別にみると和牛は4、5月ともに飼養頭数が回復傾向にあることも影響し 1.5%増の 3万4,200 頭、交雑種は酪農家での黒毛和種交配率の上昇で増加が見込まれ 8.8%増の 1万9,500 頭、乳用種は 1.2%減の 2万7,700 頭としている。

東京食肉市場の5月のと畜頭数は 6,900 頭を予定している。

<5月の牛枝肉相場見通し>

GW明け直後は補充買いが見込まれるため、堅調な相場が予測される。しかし、国内の末端消費は高値による牛肉離れが進む一方で、補充買い後は軟調な相場展開か。

和牛去勢	価格予測	交雑去勢	価格予測
A5	2,800~2,900	B4	1,700~1,800
A4	2,450~2,550	B3	1,500~1,600
A3	2,150~2,250	B2	1,300~1,400
A2	1,950~2,050		
乳牛去勢			
B3	1,100~1,150		
B2	900~1,000		

小動物事業部

食肉流通統計によると、3月の全国と畜頭数は 144万3,645 頭（前年同月比 99.9%）となり前年より減少した。また、3月分の豚肉通関実績は、総量で 8万1,301t（前年同月比 112.9%）と前年より上回った。うちチルドが 3万6,460t（同 113.7%）で内訳は、米国が 2万226t（同 105.5%）、カナダは 1万5,104t（同 126.4%）、メキシコが 1,126t（同 117.4%）となった。フローゼンは 4万4,841t（同 112.2%）と前年を上回り、デンマークが 8,617t（同 90.0%）、メキシコが 7,369t（同 141.0%）米国が 5,396t（同 157.0%）、カナダが 4,804t（同 146.4%）となった。

<4月の豚取引の推移>

上旬	全国と畜頭数	上物価格	中物価格	上場頭数
3日	62,600	491	472	674
4日	64,500	522	493	791
5日	63,600	522	484	642
6日	65,500	517	491	784
7日	66,100	528	494	932
10日	66,100	520	494	746
11日	65,800	512	482	964

上旬の全国と畜頭数は1日あたり平均 6万4,900 頭と前年並みの頭数であった。当市場においては平均 790 頭と前年を下回る上場頭数であった。

4月に入り花見などの行楽需要が期待されたが、焼き商材のスペアリブの引き合いが強まったほかは、特に目立った荷動きが見られなかった。

しかし、当市場の相場は年度初めということもあり、上物平均価格 516 円、中物平均価格 487 円と比較的堅調に推移した。

中旬	全国と畜頭数	上物価格	中物価格	上場頭数
12日	62,500	500	474	647
13日	67,000	509	474	669
14日	64,800	491	462	918
17日	64,800	496	470	726
18日	66,600	531	506	624
19日	63,700	504	482	596

中旬の全国と畜頭数は1日あたり平均 6万4,900 頭と前年を下回った。当市場も1日平均 696 頭と前年を下回った。

学校給食の再開とともにスソ物の荷動きが強まり、特にモモの価格が上がってきた。輸入フローゼンのバラが高騰していたが、国産への影響は見られず、むしろ動きは鈍かった。ロース・肩ロースについてはGWの手当てが入り、若干ではあるが強まった。

当市場の相場は上物加重平均で 500 円台をкаろうじてキープするものの、春の中弛みのような展開となった。

下旬	全国と畜頭数	上物価格	中物価格	上場頭数
20日	66,100	495	488	750
21日	66,800	504	480	891
24日	66,100	493	482	880
25日	67,000	510	485	921
26日	66,800	507	474	649
27日	68,100	520	485	932
28日	68,100	517	505	741

下旬の全国と畜頭数は、平均 6万7,000 頭と前年を下回った。当市場の上場頭数も平均 823 頭と前年を下回った。

いよいよ大型連休を目前に荷動きも活発になるかと思われたが、全国頭数が安定して出ていることもあり比較的落ち着いた雰囲気の流れであった。

国産物・輸入物、冷蔵物・冷凍物を問わずスソ物の引き合いが強くなり値も上げてきたが、GW前のバタバタした感じが今年は見られなかった。

当市場の相場は上物平均で 506 円、中物平均 485 円となり、大型連休前の嵐は訪れなかった。

<5月の豚枝肉相場見通し>

農水省による5月の全国と畜頭数は、134万2,000 頭（前年同月比 102.0%）と予測しており、一日当たりの頭数は約 6万7,100 頭である。当市場の5月の集荷予定頭数は 1万6,500 頭となっており、一日当たりでは約 825 頭の見込みである。

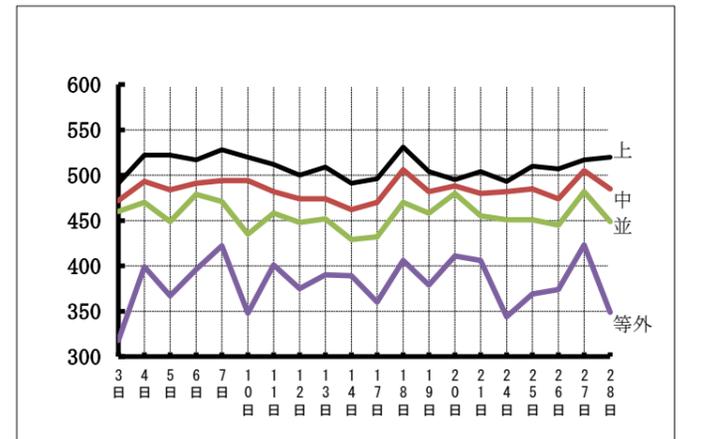
また、農畜産業振興機構による5月分の豚肉輸入見込数量は、総量で 7万200t（前年同月比 103.5%）の予測となっている。内訳はチルドが 2万9,000t（同 111.9%）、フローゼンは 4万1,200t（同 98.4%）の予測である。

また2月における豚肉推定在庫量は、国産品が 1万7,603t（前年同月比 102.6%）、輸入品は 15万3,501t（同 101.6%）となり合計 17万1,104t（同 101.7%）となった。推定出回り量は 14万4,741t（前年比 104.7%）で前年を上回った。うち国産品は 7万1,344t（同 95.8%）輸入品は 7万3,397t（同 115.2%）であった。国内生産量は 7万1,706t（同 95.9%）と前年を下回った。

GW中の東京の街並みは一部イベント会場等を除き閑散としていて、小規模店舗の多くは休業となっていた。ここを境に全国的にも気温が上昇してきており、5月は夏日が多くなりそうである。バラの荷動きに影響がでそうである。連休前から中元ギフト用の手当てが散見されていることもあり、スソ物需要は堅調に推移するものと思われる。

肉類全般を見ると概ね需給のバランスがとれている感があり、アイテムも潤沢な状態となっている。ここ数年5月は相場が上向く傾向にあるが、以上のことから当市場の上物平均価格は 530 円、中物平均価格 500 円と予測する。

豚 日別相場表 (4月)



出荷者の皆様へ

PEDをはじめとする様々な病気を予防するため、防疫体制を強化しております。生体車の消毒など、衛生担保のため、引き続き皆様のご協力をよろしくお願いいたします。